

# 紀 要

第56号

弘前学院大学文学部

2020年3月

## 執筆者紹介

川 浪 亜弥子 教 授 英語・英米文学科 イギリス文学

---

畠 山 篤 教 授 日本語・日本文学科 日本古代文学・民俗学

## 目 次

ロバート・グリーンンの散文作品におけるオヴィディウスの要素について — <i>Alcida: Greenes Metamorphosis</i> (1588) を中心に— ……………	川 浪 亜弥子 (1)
<hr/>	
もう一つの「日の御子」の誕生 —二皇子発見譚の生成— ……………	畠 山 篤 (1)
<hr/>	
文学部業績一覧 ……………	(51)

## 弘前学院大学文学部紀要投稿規定

- 1, 弘前学院大学文学部専任教職員は、論文を投稿することが出来る。（左記以外の投稿者については文学部専任教員の推薦を必要とする。）
- 2, 投稿論文は未発表のオリジナルなものに限る。原則として一人1論文とする。
- 3, 編集および発行は紀要編集委員会が担当し、関連事務は図書館が行う。
- 4, 発行は、年1回とし、投稿の締め切りは11月20日を原則とする。
- 5, 9月30日までに論文の表題ならびに予定枚数を紀要編集委員会に申し込む。
- 6, 原稿提出の際、紀要投稿届用紙に所定の事項を記入の上添付する。表題が日本語の場合には欧文（タイプで打つ）を併記する。
- 7, 投稿論文の採否は、紀要編集委員会が決定する。
- 8, 印刷の様式はB5版とし、和文の場合は、本文9ポ、タテまたはヨコ2段組（または1段組み）、欧文の場合は、本文9ポ1段組、論文の長さは刷り上がり16ページ以内とする。このページ数を越えるときは、超過分の経費は筆者の負担とする。
- 9, 印刷技術上の特別の要望がある場合は印刷した原稿の冒頭にその旨を赤で記載する。
- 10, 紀要編集委員会は字句について加除訂正を求め、また、字句の訂正を行うことがある。
- 11, 原稿の校正は図書館を経て行う。
- 12, 校正は原則として、校了まで筆者が行うが、原稿修正は最小限にとどめる。  
修正によって特に費用が加算される場合、加算分は筆者の負担とする。発行の迅速を期すため校正はできるだけ急ぐ。また校正の記号は常識的なもので差し支えないが、赤で明瞭に記す。
- 13, 別刷は30部以内は校費、30部を超える分は筆者の負担とする。
- 14, 原稿は本文をワープロ等で電子化して提出することを原則とする。原稿の入力は筆者が行うものとする。電子化せずに提出する場合は、加算される費用は筆者の負担とする。
- 15, 原稿は、本文が入力されたフロッピーディスク等のメディアに加え、本文を印刷したもの、図表を添付して提出する。
- 16, 紀要に掲載された内容については、学内及び学外の指定された機関において、電子化して二次利用できるものとする。学外の指定機関については、紀要編集委員会の推薦を経て、教授会で決定する。二次利用には、内容をデジタル化してハードディスク等に記録する他、蓄積した情報をネットワークを経由して提供すること、他のコンピュータへダウンロードし閲覧・印刷すること、書誌情報を作成して提供することを含む。
- 17, ペンネームの使用は、本人であることが公開されている場合のみ認め、匿名に相当するものは認めない。

この規定は2002年11月26日より施行する。

弘前学院大学文学部紀要編集委員会

編集委員長 川 浪 亜弥子  
編集委員 畠 山 篤

---

---

ISSN 1347 - 9709

弘前学院大学文学部 紀 要 第56号

2020年 3 月 18 日 印刷

2020年 3 月 25 日 発行

編 集 者 文学部紀要編集委員会  
弘前市稔町13の1 (電話 0172-34-5211)

発 行 所 弘前学院大学文学部

印 刷 所 印刷の(有)ササヌマ産業

---

---

# THE BULLETIN

OF

HIROSAKI GAKUIN UNIVERSITY

NO. 56

---

## CONTENTS

Ovidian Aspects in Robert Greene's Prose Works

— In the case of *Alcida: Greenes Metamorphosis* (1588) —····· Ayako KAWANAMI ( 1 )

---

Another Version of the Birth of “the Son of Emperor”

—The Formation of the Discovery Story of Two Princes—····· Atsushi HATAKEYAMA ( 1 )

PUBLISHED BY  
HIROSAKI GAKUIN UNIVERSITY  
FACULTY OF LIBERAL ARTS  
HIROSAKI, JAPAN  
MARCH 2020